

「夜の学校」最後の同窓会

天王寺高定時制 元生徒ら40人懐かしむ

2008年に幕を下ろした府立天王寺高校定時制の同窓会が、今年で解散する。その「最後の総会」が15日、大阪市であった。約40人の元生徒らが集まり、眠い目をこすりながら通った高校生活を懐かしんだ。

同窓会によると、同校 さん(83)は振り返る。定時制は1951年に設立された。高度経済成長期には集団就職で地方から来た若者らが、仕事の後に夜の学校へ通った。「サボる気は全然起きなかった。会社が終わったら飛んで行ったもんね」。7期生の古村成正

古村さんは、新聞部の部長になった。新聞発行にいそしむ傍ら、生徒議会の議長も務めた。「勉強する間もないくらい忙しかった」と笑う。

学校には、障害のある生徒も通っていた。21期生の大塚真知子さん(72)もその一人だ。

3歳のとき、抗生物質ストレプトマイシンの副作用で、耳が聞こえなくなった。ろう学校に通っていたが、「障害者への就職差別が厳しかった。



①乾杯後、元生徒らが高校時代の思い出を語り合った②大阪市天王寺区③当時の大塚さん(2列目左から3人目)と、村井さん(2列目左端)④大塚さん提供

集団就職・障害… 支え合う心のふるさと

仕事を得るために、普通科で学びたいと思った」と振り返る。

聴覚障害のある生徒への支援体制はほとんどない。教室の一番前に座り、板書を見ながら乗り切った。

卒業できたのは、数学教諭だった村井貫悦さん(76)らの支えがあったからだ。

「生徒の目線で生徒に向かって、人生とは何なのかを熱く語ってくれた」。大塚さんは村井さんとの思い出をこう振り返った。

この日、同窓会に参加した村井さんも、大塚さんを覚えていた。「口の動きを見ながら、授業についてきてくれた」と振り返る。初めて赴任した学校で、うとうとしながら勉強する生徒たちを見ては、「僕の方ががんばらない」と自分を奮い立たせた。

だが、そんな定時制高

校は減りつつある。

入学を希望する勤労青少年が減少し、府教育委員会は2003年に再編整備計画を策定。計画以前には29校あった府立の定時制は、25年度時点で17校となった。

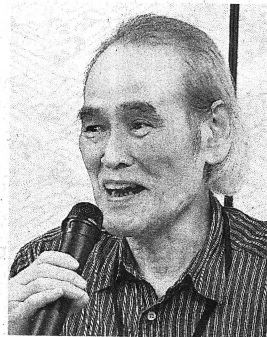
天王寺高校定時制も08年に閉課程した。その後も続けていた同窓会も、役員の高齢化で解散することとなった。

一方で府教委によると「自分のペースで勉強したい」と定時制を選ぶ子どもたちもいるという。

「閉鎖されていくのは寂しい。定時制を必要としている子どもたちは、まだいるはずだ」と村井さんは話す。

この日、最後に校歌をみんなで歌った。学校を去って何年経っても、元生徒たちはメロディーを忘れていない。

《とわにかわらぬ心のふるさと 仰げ若人あゝ天王寺》(魚住あかり)



①古村成正さん
②大塚真知子さん

